

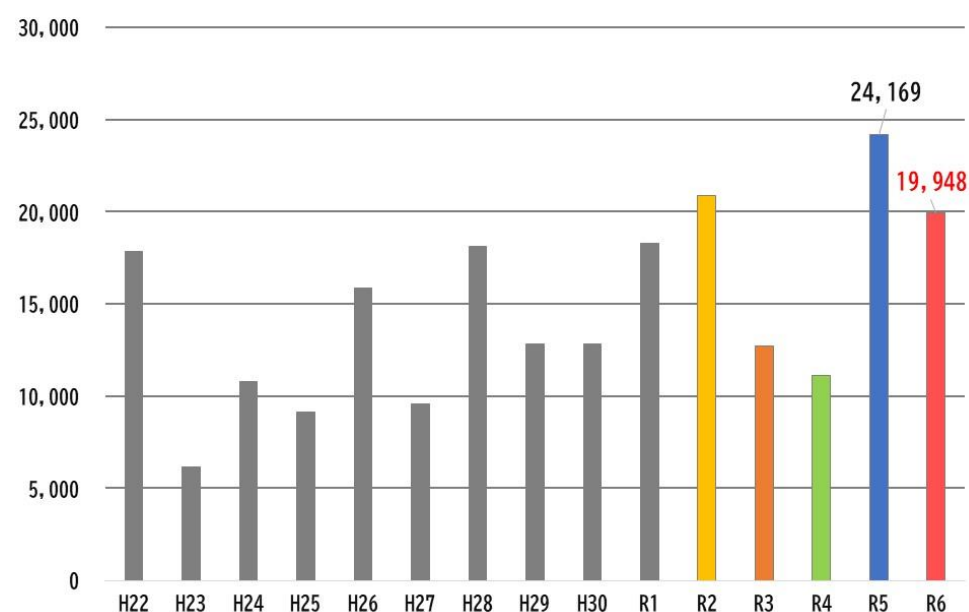
令和 6 年度のクマ類の動向

出没件数：ツキノワグマ（全国）

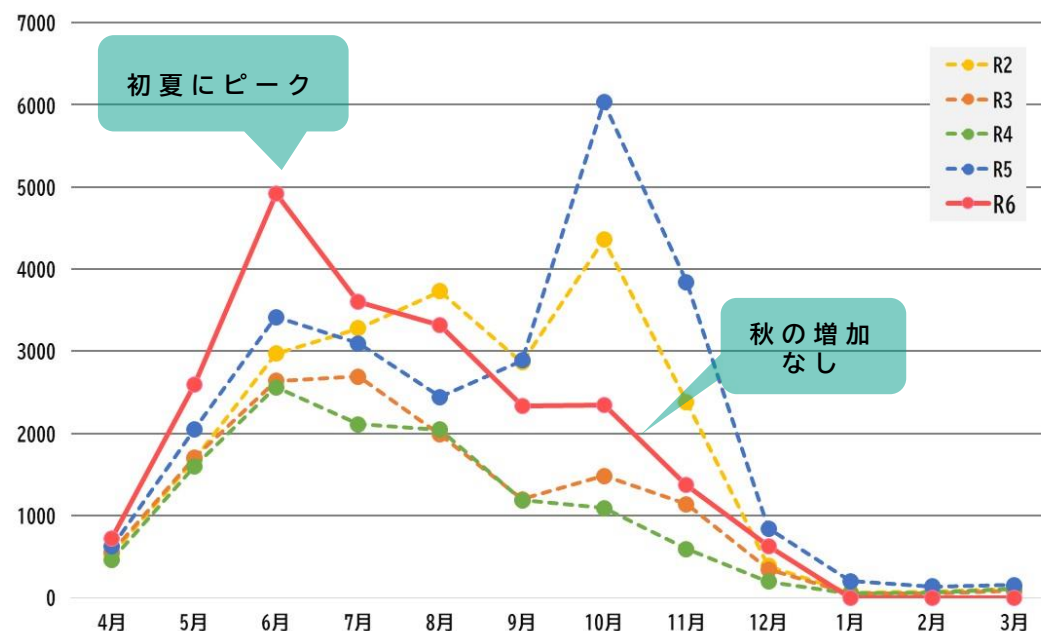
- 令和5年度と比較すると出没件数は少ないが、高い水準である※。
- 令和5年度は9月以降に出没件数が増加したが、令和6年度は例年通り初夏に増加し、秋の出没件数は少なかった。
- 初夏の出没件数は過去5年間で最多だった。

※：出没件数は同一個体が複数回確認されること、住民の関心の高さ等に影響されることに留意が必要である

出没件数（年度別）

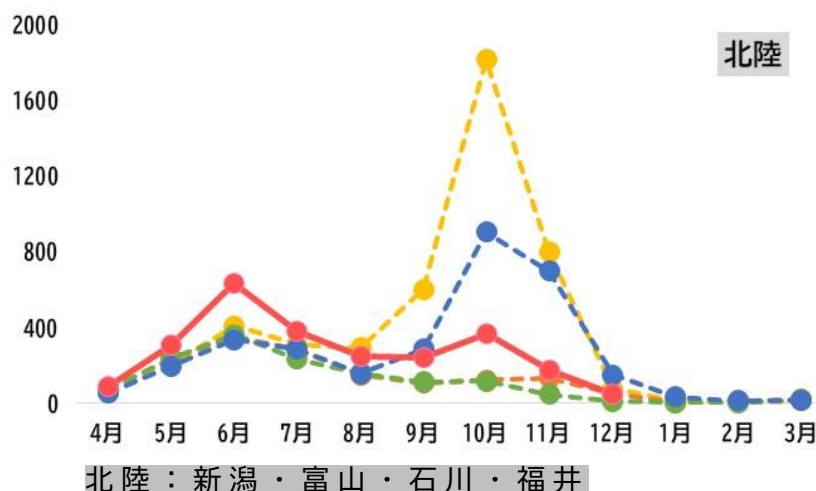
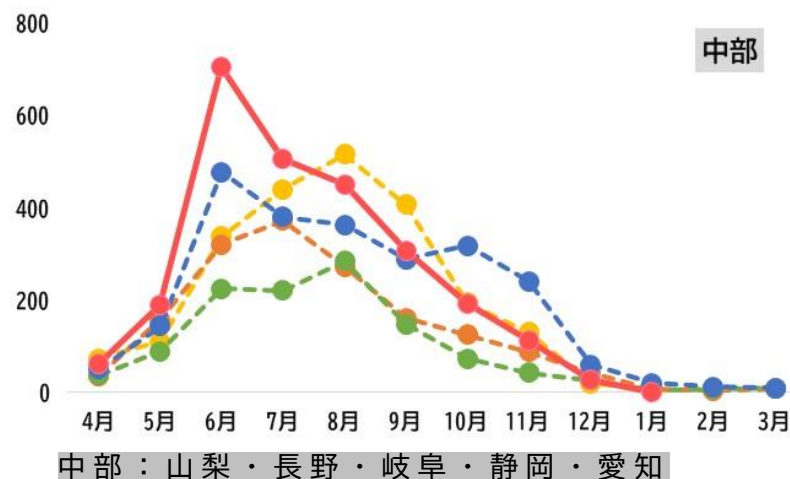
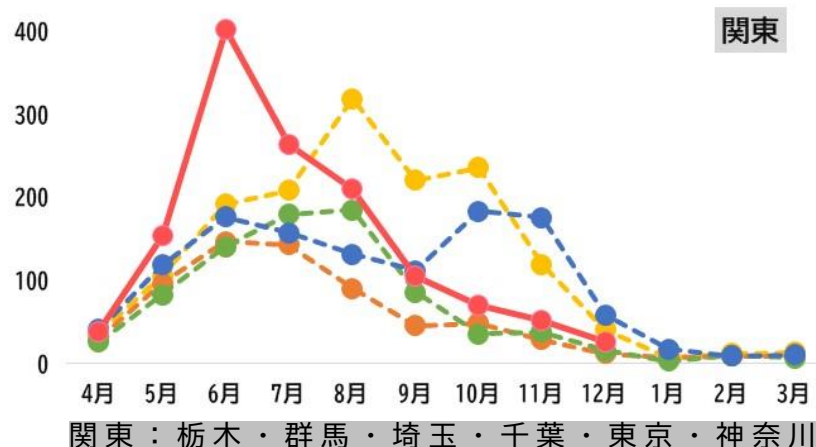
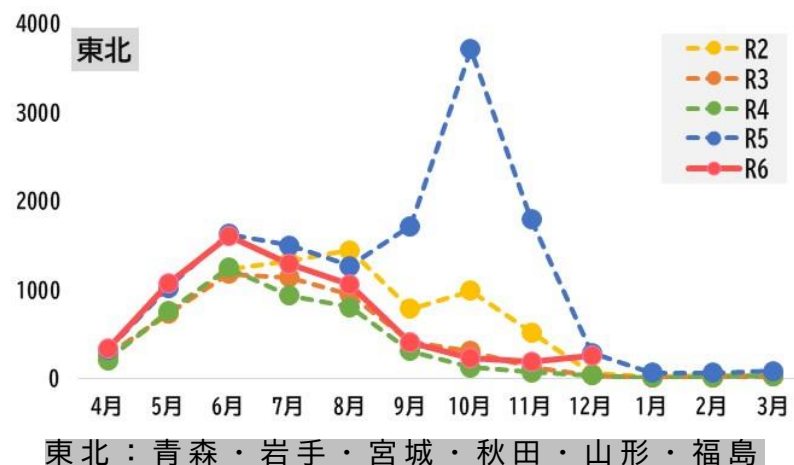


直近5年の出没件数（月別）



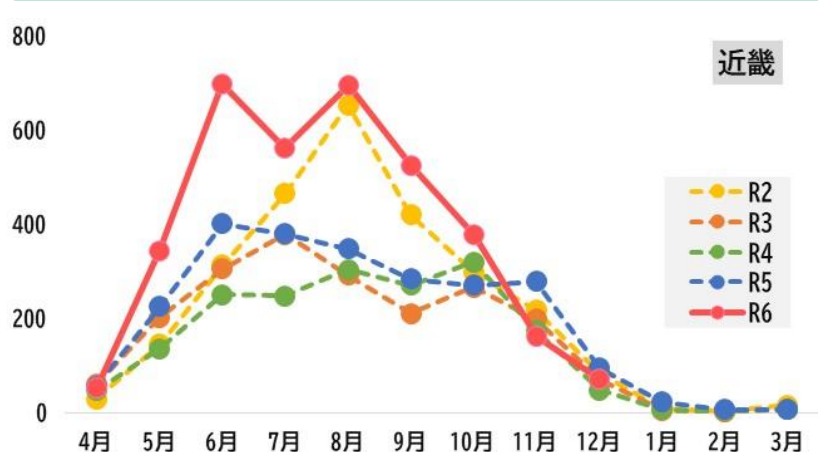
出没件数：ツキノワグマ（東北・関東・北陸・中部）

- 秋の顕著な出没件数の増加はなかった。堅果類が豊作の地域が多かったことが要因のひとつと考えられる。
- 関東・中部で6月の出没件数が令和6年度多かったのは、関東は群馬県、中部は長野県・岐阜県が例年よりも多かったことが影響している。

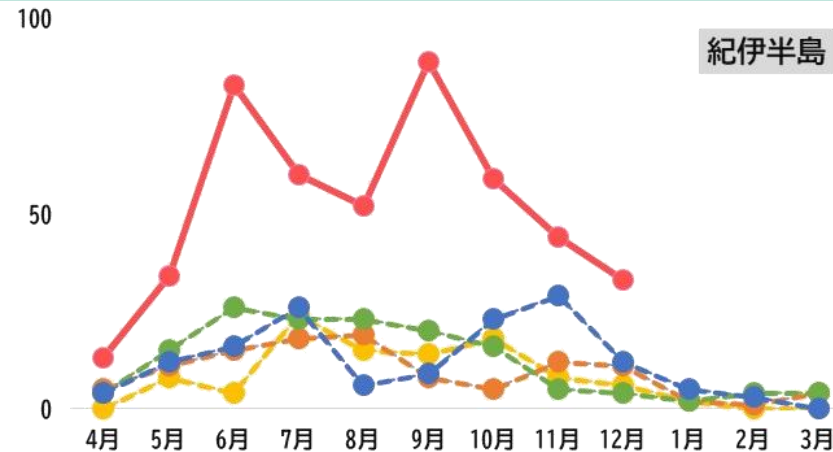


出没件数：ツキノワグマ（近畿・紀伊半島・東中国・西中国）

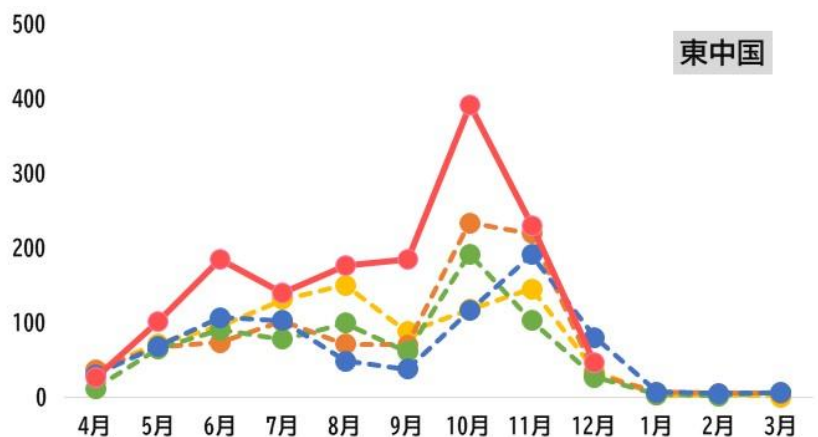
- 6～9月の出没件数が例年と比べて多かった（近畿、紀伊半島）
- 秋の出没件数が多かった（東中国）



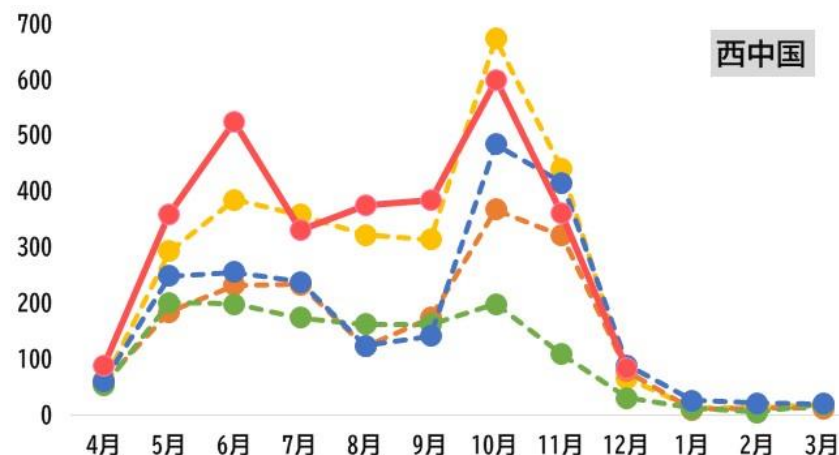
近畿：滋賀・京都・大阪



紀伊半島：三重・奈良・和歌山



東中国：兵庫・鳥取・岡山

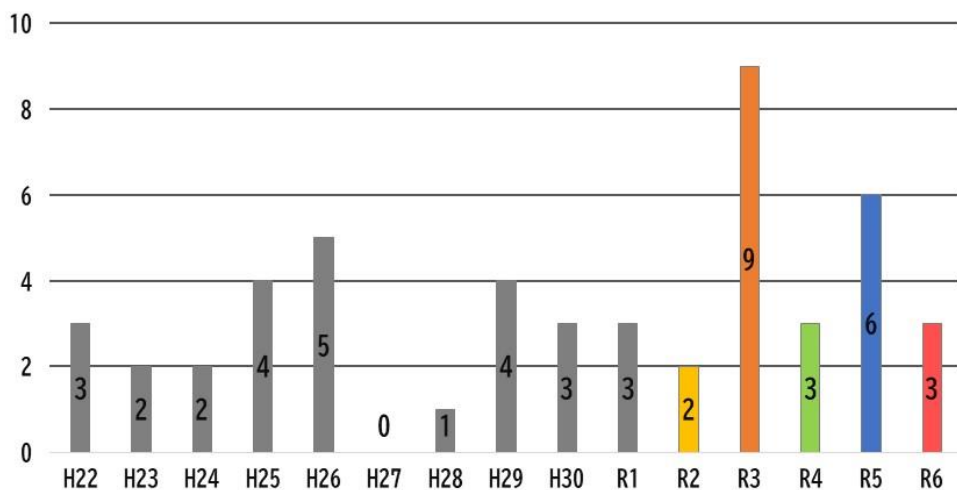


西中国：島根・広島・山口

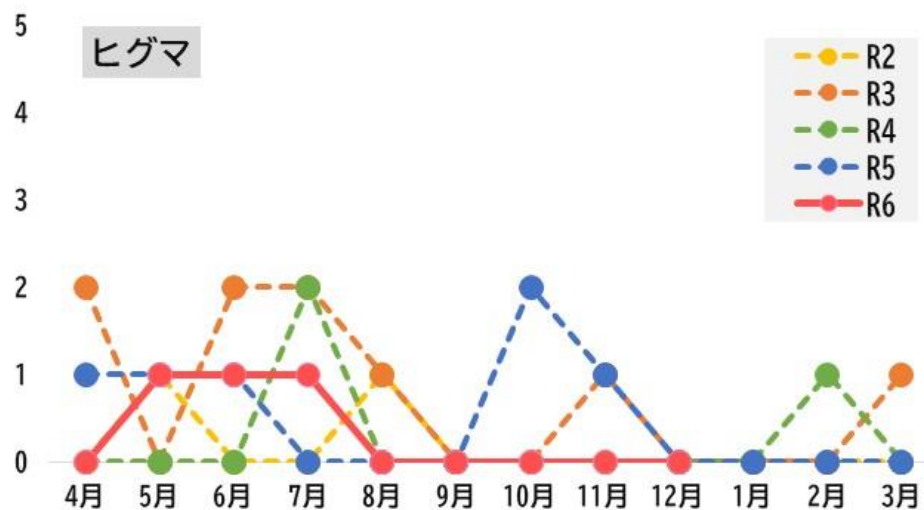
人身被害件数：ヒグマ

- 例年と比較して顕著な増加はない。
- 令和6年度の被害は5～7月の春～夏であった。

ヒグマによる人身被害件数



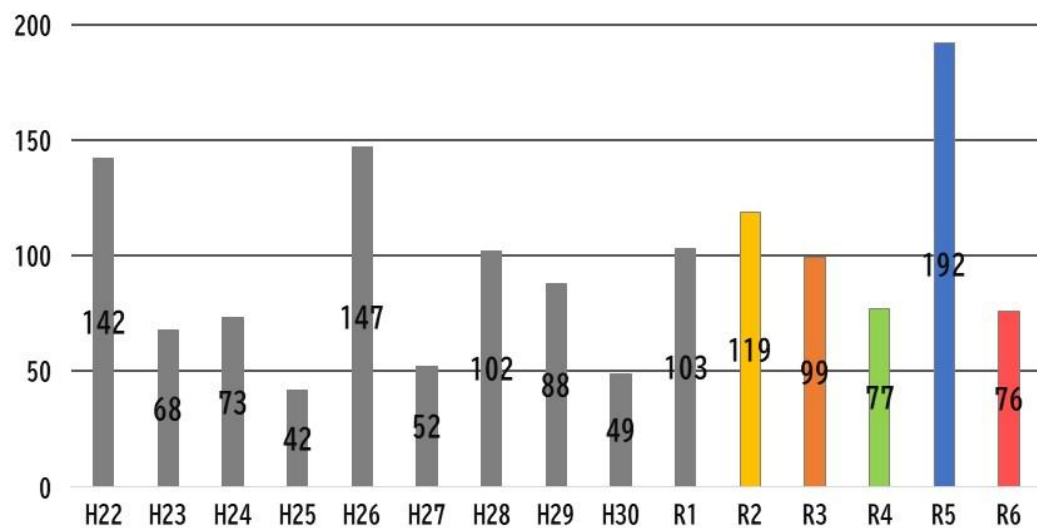
直近5年の人身被害件数（月別）



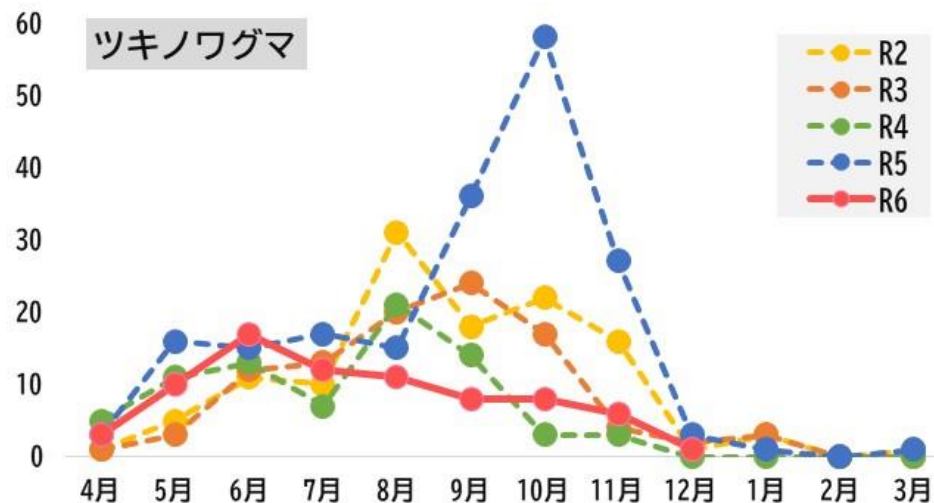
人身被害件数：ツキノワグマ

- 令和5年度は秋に人身被害が急増したが、令和6年度は秋に増加するパターンはなかった。
- 出没件数と同様6月に被害件数が増加する傾向であったが、出没件数は例年より令和6年度は高い値であったのに対し、被害件数は例年と同程度であった。

ツキノワグマによる人身被害件数

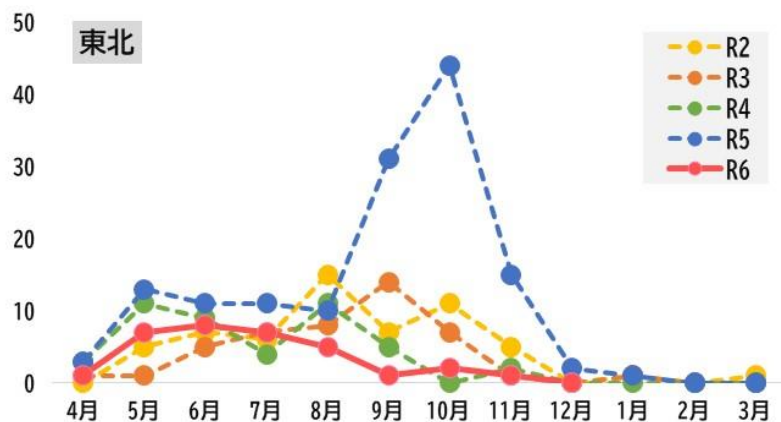


直近5年の人身被害件数（月別）

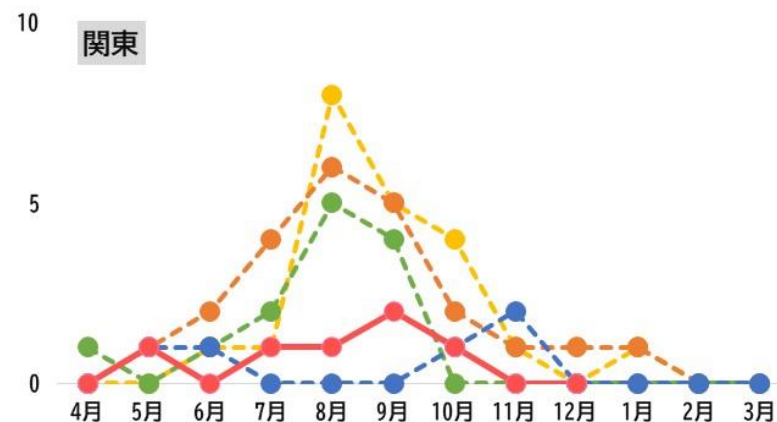


人身被害件数（月別）：東北・関東・北陸・中部

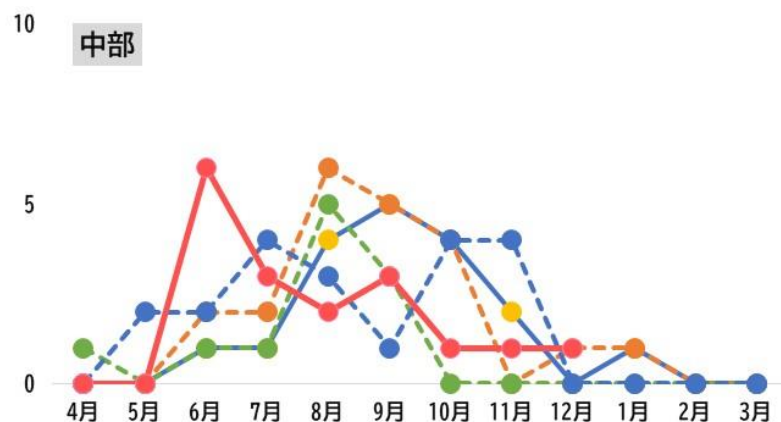
- 被害件数は例年並み～例年より少なかった。特に東北では令和5年度秋に人身被害が過去最大となったが、令和6年度はわずかであった。
- 中部地方で6月に被害が多い傾向であった。



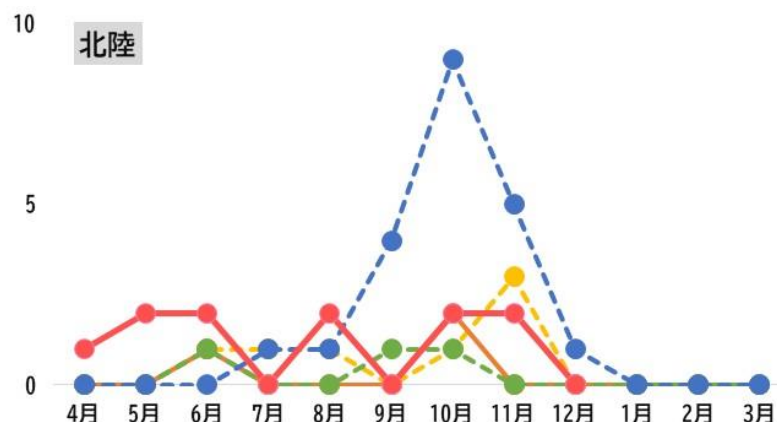
東北：青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島



関東：栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川



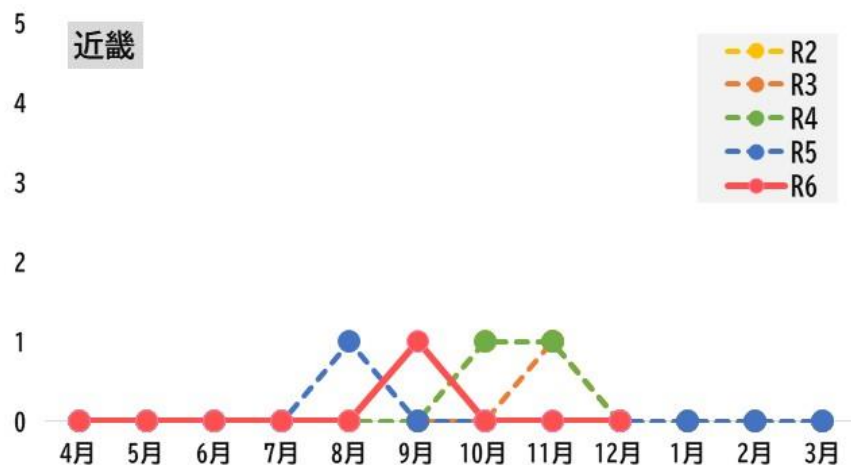
中部：山梨・長野・岐阜・静岡・愛知



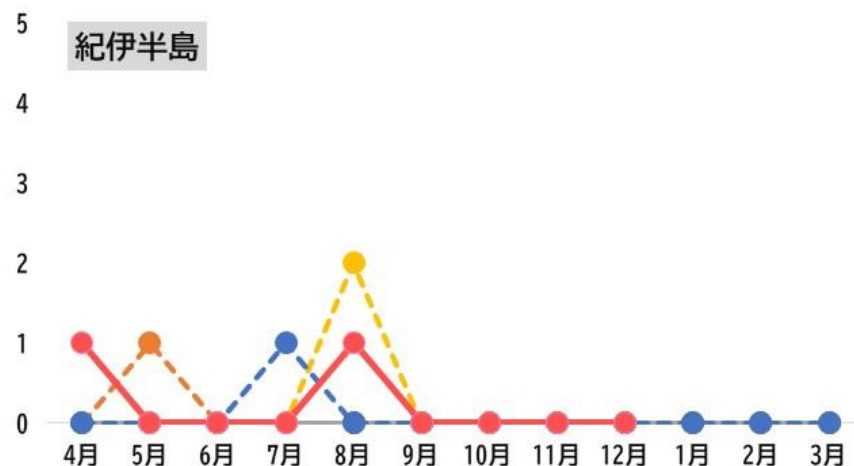
北陸：新潟・富山・石川・福井

人身被害件数（月別）：近畿・紀伊半島・東中国・西中国

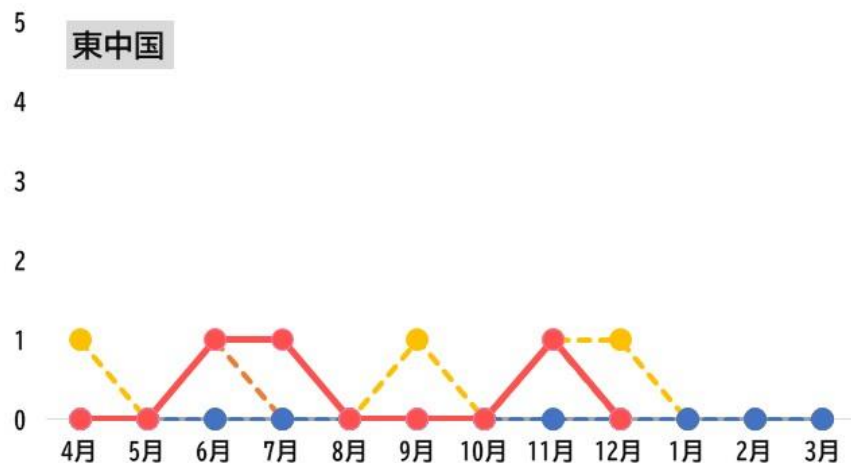
○ 例年と比較して出没件数は多かったが、人身被害件数の顕著な増加はなかった。



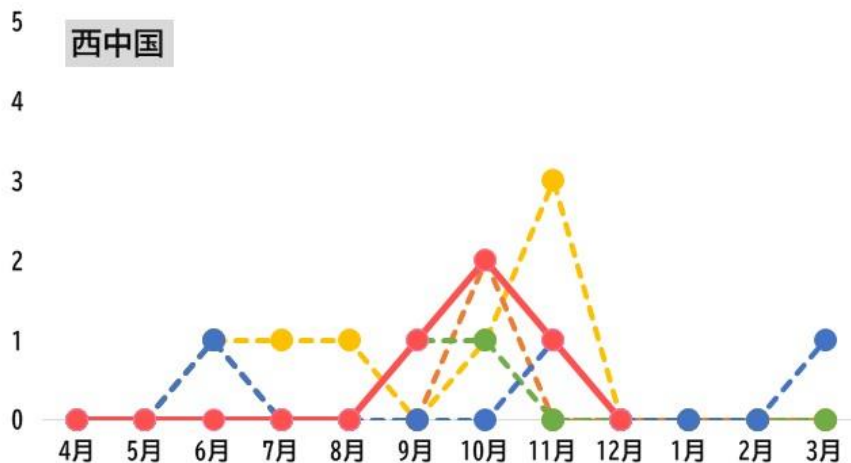
近畿：滋賀・京都・大阪



紀伊半島：三重・奈良・和歌山



東中国：兵庫・鳥取・岡山

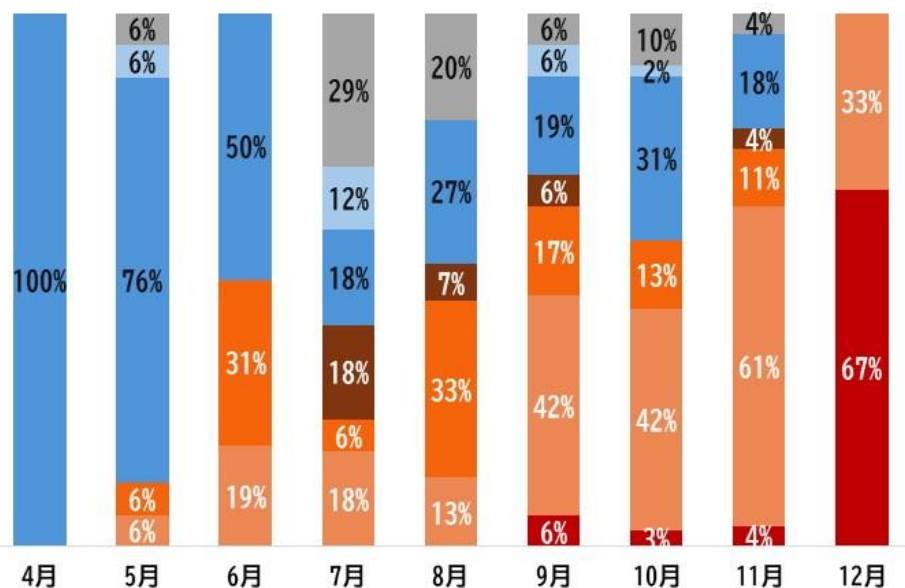


西中国：島根・広島・山口

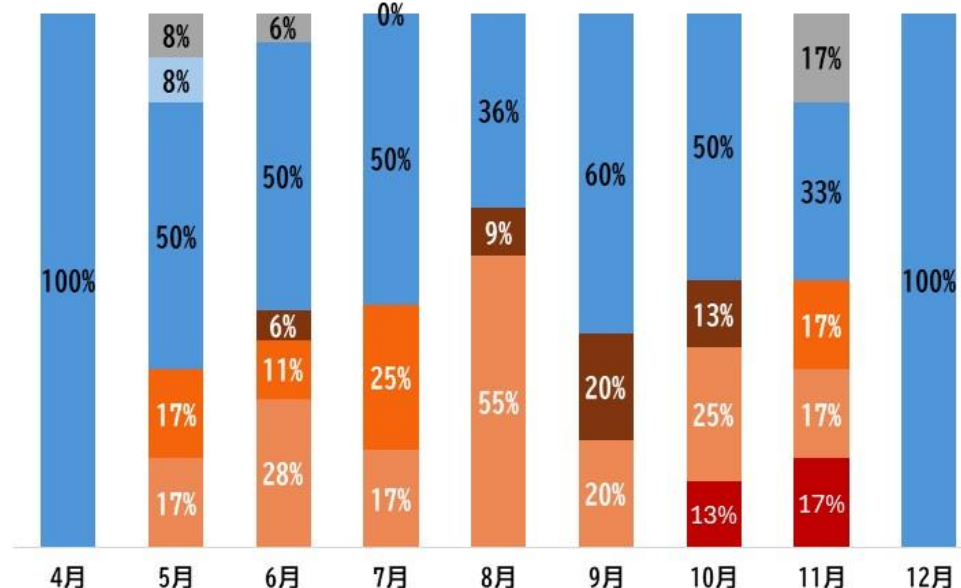
人身被害発生場所：クマ類（令和5・6年度比較）

- 令和5年度と比較して、人の生活圏における人身被害の発生割合は少なかった。
- 令和5年度、令和6年度とも、春先以外は半数程度が人の生活圏で発生していた。

令和5年度



令和6年度



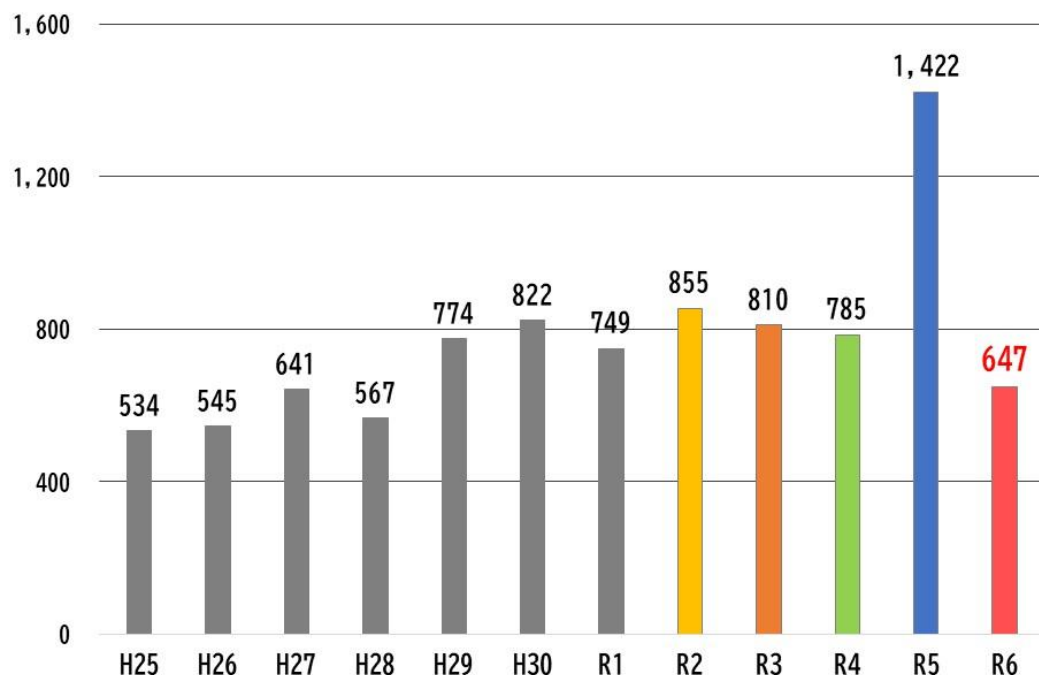
人の生活圏：■市街地 ■人家周辺 ■農地 ■道路

クマの生息地：■森林 ■河川敷 ■その他

許可捕獲数：ヒグマ

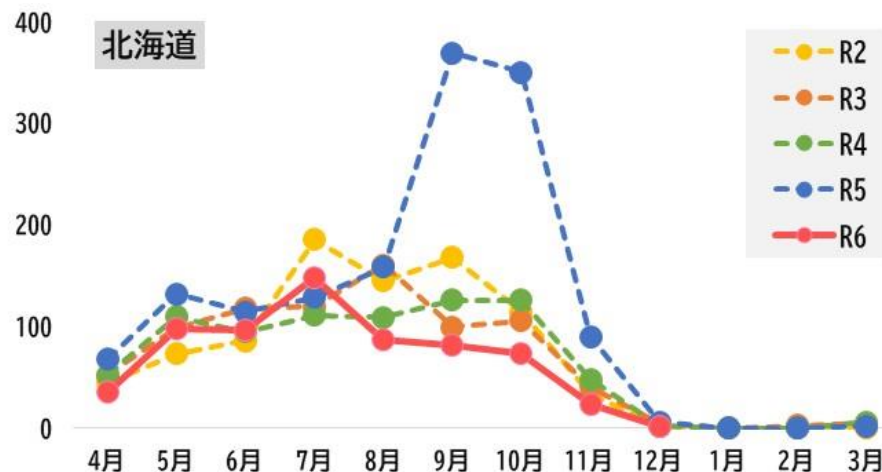
- 許可捕獲数は例年並みであった。
- 許可捕獲数の月別の傾向も例年と同様だった。

ヒグマの許可捕獲数



(許可捕獲数は非捕殺数も含む)

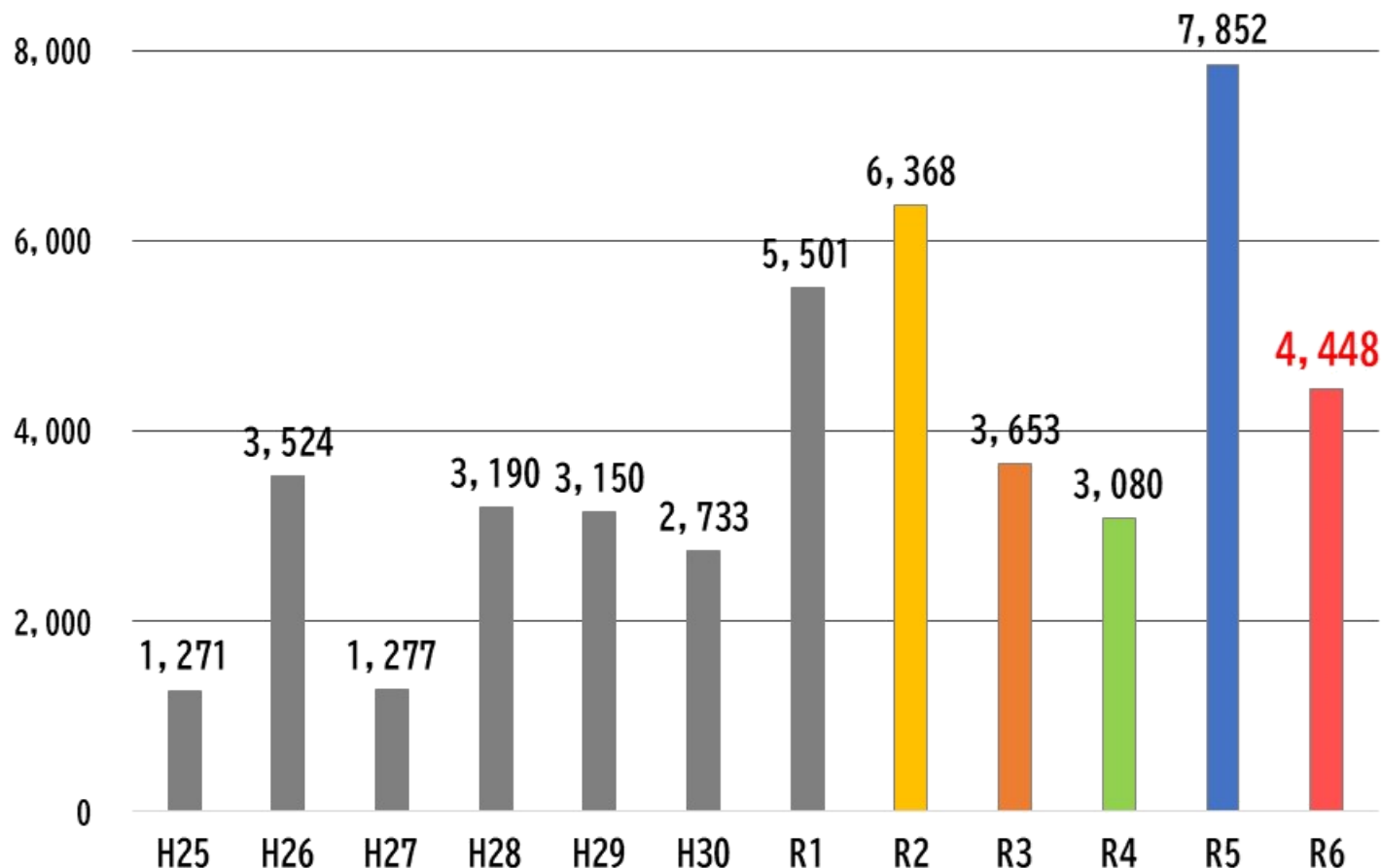
直近5年の許可捕獲数（月別）



(令和6年度の数値は12月時点)

許可捕獲数：ツキノワグマ

○ 許可捕獲数は令和5年度と比較して6割程度であった。

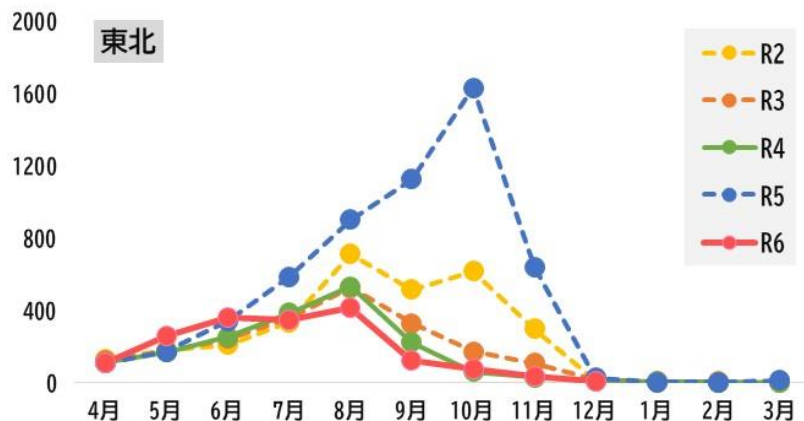


(許可捕獲数は非捕殺数も含む)

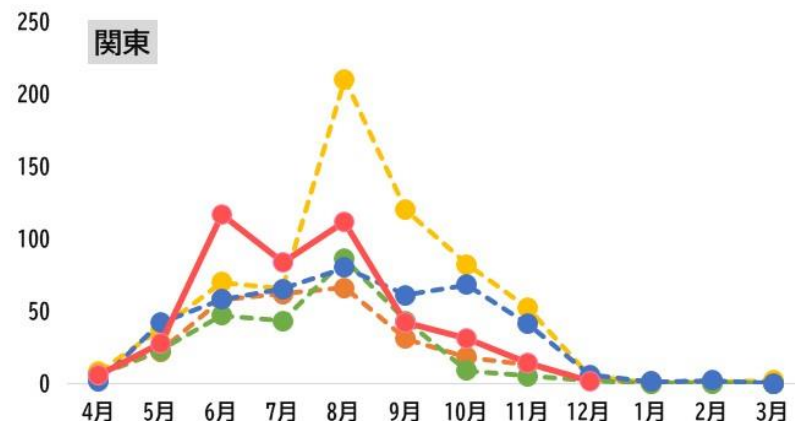
(令和6年度の数値は12月時点)

許可捕獲数（月別）：東北・関東・北陸・中部

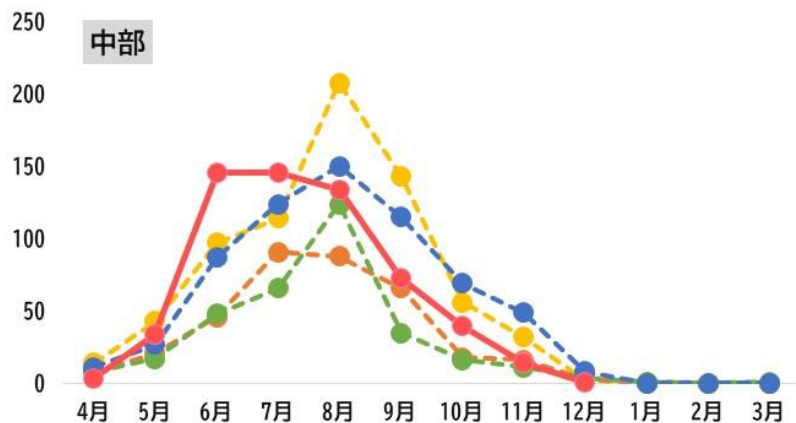
- 関東・中部地方は6～8月の捕獲数が多く、出没件数と同様の傾向だった。
- 東北・北陸地方は例年並みで推移していた。



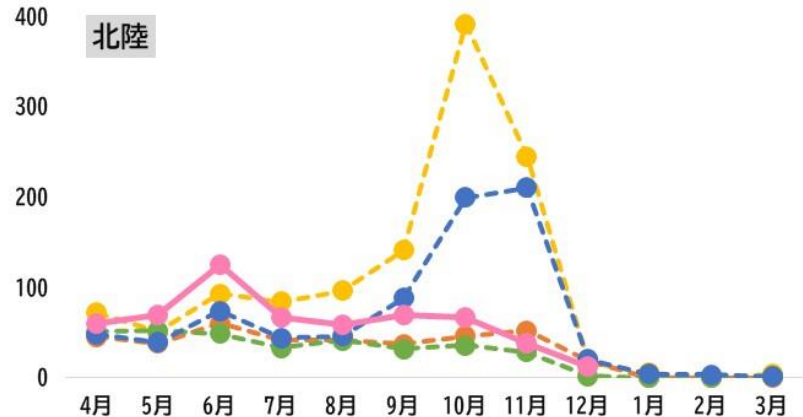
東北：青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島



関東：栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川



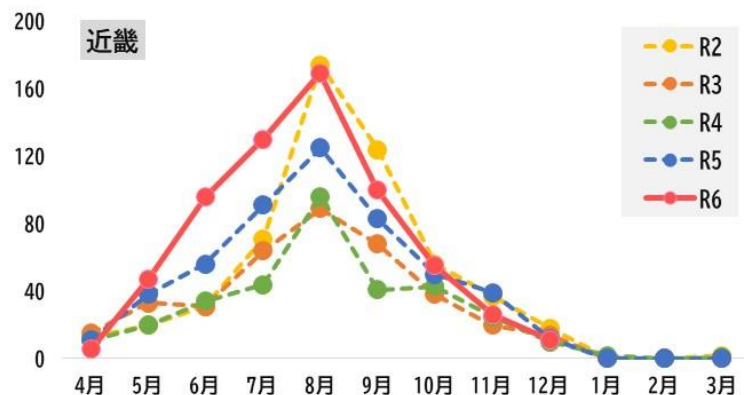
中部：山梨・長野・岐阜・静岡・愛知



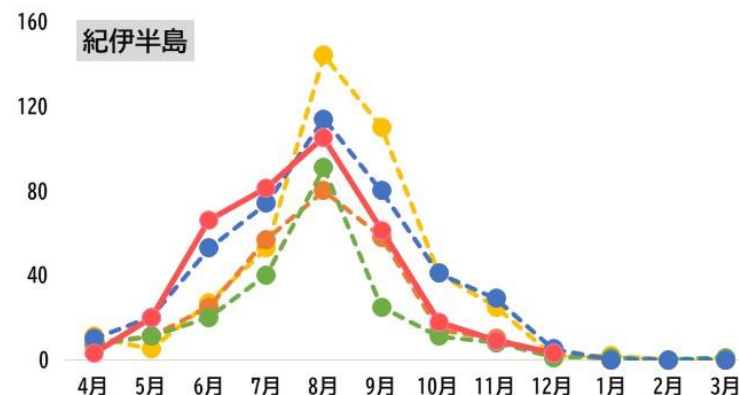
北陸：新潟・富山・石川・福井

許可捕獲数（月別）：近畿・紀伊半島・東中国・西中国

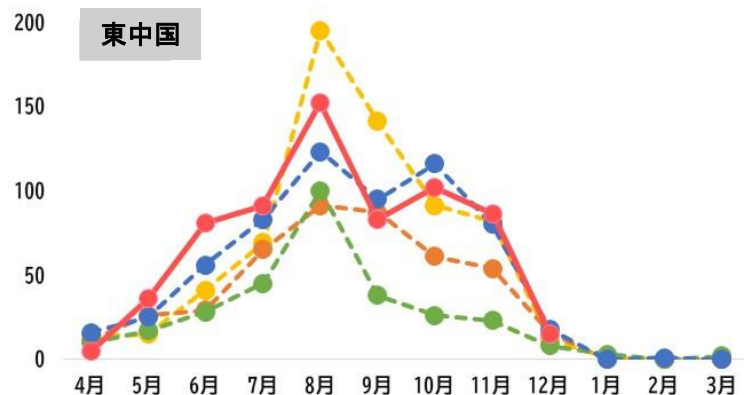
- 紀伊半島・東中国地方は、令和6年度の出没件数が例年よりも多かったが、近畿・西中国地方と同様に令和2年度と同程度だった。



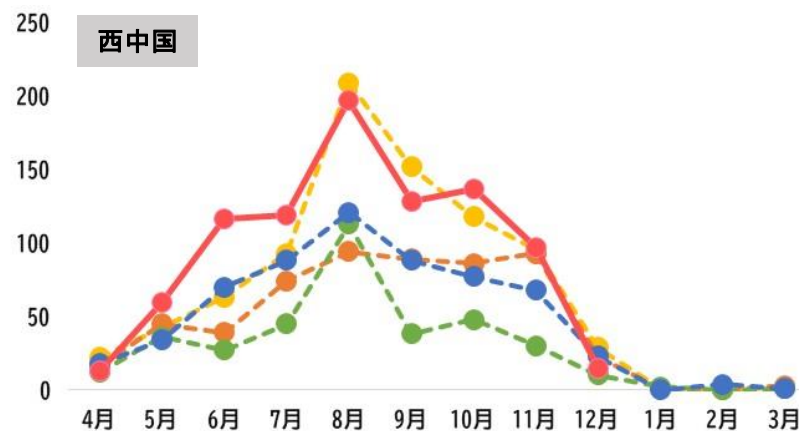
近畿：滋賀・京都・大阪



紀伊半島：三重・奈良・和歌山



東中国：兵庫・鳥取・岡山



西中国：島根・広島・山口